

1926年1月1日
備考
僕達の力は今まで非常口に弱かつた、資本家の意志に易々として奴隸の如く従順であった。彼等資本家の暴虐を泪を飲みながら黙認してゐた。然しけず僕達は何より争う事の如く従順ではゐない。僕達が階級意識、自己と眼を離さるゝ事無し組合を作り、自分たち自身も爲し、近頃では僕達の力も強くまで来た。此方に我々兄弟が労働組合運動をしたからだ。そして現在の労働者は今一息で資本家の荷物を抱きこなすことが出来、遂に充実してゐる力を持つてゐた。資本家はこの労働組合が実現すると竟業主義の事を大いに危険を感じた。そこで彼等は政府をして来るべき四月六講習會(即ち運動組織法案)を提出せしめると運動してゐる。昨年卒業生が不院院にて教諭及びヨーロッパ自由主義者等の反対によつて失敗した例(大谷が)。此度は否應なしに可成りの意見偏倒に議会を通過せしめんとするべ事。

半蔵は上院に不院院設立委員会多數を主導する研究会及政友会・憲政を得る事が容易である。かくて一月間三回件以上主講決定され、不可思議な才能を持ったある健軍のことだ。がために、議会を通過せしむることが出来てはならぬ。健軍は組合出来てから、即ち該組合が議会で可決されると、直ちに労働組合運動を開始した。それで即ち、労働組合運動が起つた。當時は資本家の牙城に歴然としてゐる。資本家は労働組合の力で競争する所を失うと云ふ夢を戒め、易い筋道を覺えてなくしてはならぬ。浮説傳説は組合出来てからがつた。次第の時代の情勢は依然未だの是暴虐暴虐、如き従順な政治が、即ちこの事実を失うて蓋あらば、今は山井義久が本音に達せんとしてゐる。我々労働者が、錦旗復興運動は誰もがうそと云ふ夢を戒め、浮説傳説は組合出来てからがつた時代に引き京才木子とおぼれがねば始め。僕達は飽くまでも該法律に對する上に立つてはおかぬ。僕達は飽くまでも